

東京・新宿・渋谷など JR 東日本 6 駅の駅構内データを 公共交通オープンデータチャレンジにおいて公開

～歩行空間ネットワークデータと国際標準の GTFS Pathways 形式で、ターミナル駅での移動を支援～

公共交通オープンデータ協議会（会長：坂村 健 東京大学名誉教授）は、東日本旅客鉄道株式会社（JR 東日本）および JR 東日本コンサルタンツ株式会社の協力を得て、JR 東日本 6 駅（東京駅、新宿駅、池袋駅、渋谷駅、品川駅、高輪ゲートウェイ駅）の駅構内データを、「公共交通オープンデータチャレンジ 2026」（以下「本チャレンジ」）において本日より公開します。国土交通省の仕様に基づく歩行空間ネットワークデータに加え、公共交通データの国際標準である GTFS の駅構内表現 GTFS Pathways 形式でも提供します。日本国内で GTFS Pathways データが広く整備・公開されるのは、本チャレンジが初めての事例となります。

大規模なターミナル駅の構内は、複数の階層にまたがる通路や多数の改札・出入口があり、構造が複雑です。とくに高齢者や車椅子・ベビーカーの利用者にとっては、階段や段差を避け、エレベーター等を使って目的のホームや出口までたどり着く経路を事前に把握することが、安心して移動するための重要な手掛かりとなります。今回公開するデータは、駅構内の通路・階段・エスカレーター・エレベーター・改札等のつながりやそれらのバリアフリー属性情報を記述したもので、駅構内を含めた経路案内やバリアフリーマップなど、多様なアプリケーションの開発に活用できます。

本チャレンジにおける駅構内データの公開は、昨年度の都営地下鉄大江戸線に続くものです。昨年度は、東京都交通局の協力により、同線 12 駅の駅構内の歩行空間ネットワークデータおよび構内地図データを公開しました。今年度も引き続き、同 12 駅のデータを 2026 年 9 月 17 日に先行して公開しており、今年度からは GTFS Pathways 形式のデータを追加しています。今回の JR 東日本 6 駅とあわせ、計 18 駅の駅構内データが、本チャレンジにおいて利用可能となります。

昨年度のチャレンジでは、歩行空間ネットワークデータを活用した作品が優秀賞・特別賞を受賞し、駅構内を含む歩行空間データと公共交通データを組み合わせた活用の可能性が示されました。

今回の駅構内データの公開を通じて、誰もが安心して移動できる環境の実現につながる作品が、本チャレンジに数多く応募されることを期待します。詳細は参考資料をご参照ください。

以上

[公共交通オープンデータ協議会について]

<https://www.odpt.org/>

公共交通オープンデータ協議会は、公共交通事業者および ICT 事業者等 172 団体（2026 年 10 月 26 日現在）で構成される、産官学連携の協議会です。鉄道、バス、航空、フェリー、シェアサイクルの分野において、公共交通関連データのオープン化に向けた活動を行っています。2019 年 5 月より、さまざまな交通機関のデータをワンストップで提供する「公共交通オープンデータセンター」を運用しています。

[公共交通オープンデータチャレンジ 2026 について]

<https://challenge2026.odpt.org/>

「公共交通オープンデータチャレンジ 2026」は、多数の公共交通関連データや国土交通省のオープンデータを一般の開発者に公開し、それらを活用したアプリケーション・サービス作品を開発、応募していただく、賞金総額最大 300 万円のアプリケーションコンテストです。公共交通オープンデータ協議会と国土交通省が共同で開催しています。

2026 年 10 月現在、27 社局の鉄道事業者、110 社局の路線バス事業者、352 組織のコミュニティバス、18 自治体（5 事業者）のデマンド交通、33 組織のフェリー事業者、4 社の航空・空港関係事業者、2 社のシェアサイクル事業者が公共交通データの提供に協力しています。また、国土交通省の「Project LINKS」および「COMmmONS (コモンズ)」と連携するとともに、「歩行空間ナビ・プロジェクト (ほこナビ)」や「PLATEAU」が公開するオープンデータの活用も推奨しています。

開催期間は 2026 年 7 月 1 日（水）から 2027 年 3 月 12 日（金）まで、応募期間は 2026 年 10 月 1 日（木）から 2027 年 1 月 11 日（月・祝）までとなっています。

[GTFS Pathways 形式について]

GTFS (General Transit Feed Specification) は、公共交通機関に関する国際的なオープンフォーマットです。鉄道、バス、フェリーなどの交通機関について、時刻表、駅・バス停の位置情報、運賃情報などの情報を表現するもので、国内外の様々な乗換案内サービスにおいて採用されています。

GTFS Pathways は、GTFS の公式仕様の一部として定められた、駅構内の移動経路を表現するための形式です。出入口・改札・ホーム等の地点と、それらを結ぶ通路・階段・エスカレーター・エレベーター等の経路、およびその距離などを、フロアの情報とあわせて記述できます。たとえば、東京駅や新宿駅で JR の路線同士を乗り換える場合、乗換先のホームまでに通る階段・エスカレーター・エレベーターや通路を、ひとつながりの経路として記述できます。駅構内での乗換や出口までの経路案内、バリアフリー経路の探索などへの活用が期待されています。

[歩行空間ナビ・プロジェクト (ほこナビ) について]

https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/sogoseisaku_soukou_mn_000002.html

「歩行空間ナビ・プロジェクト (ほこナビ)」は、ICT の活用により、誰もが自律的に安心して移動できる包摂社会の実現を、ICT の活用により目指す、国土交通省の取り組みです。同省が定める整備仕様に基づき、歩行空間を利用する人・モノの様々なニーズに対応する各種データのオープンデータ化を歩行空間ナビゲーションデータプラットフォーム (ほこナビ DP) を通じて促進し、段差を避けた経路検索・案内やバリアフリー施設情報提供等の多様なサービスが提供される環境の構築を推進しています。

[問い合わせ先]

公共交通オープンデータ協議会事務局 (YRP ユビキタス・ネットワーキング研究所内)

担当: 柏、山田 電話: 03-6426-9192、E-mail: odpt-office@ubin.jp

【参考資料】

(1) 今回公開する駅構内データの概要

- 対象駅（JR 東日本 6 駅）
東京駅、新宿駅、池袋駅、渋谷駅、品川駅、高輪ゲートウェイ駅
- 対象範囲
JR 東日本の駅構内
- 公開データ
 - ・ 歩行空間ネットワークデータ（歩行空間ネットワークデータ整備仕様（2024 年 7 月）に準拠）、および構内地図データ（階層別屋内地理空間情報データ仕様書（国土地理院：2019 年 3 月）に準拠）
 - ・ GTFS Pathways 形式データ
- 公開開始日
2026 年 10 月 26 日（月）
- 公開範囲
公共交通オープンデータチャレンジ 2026 の参加者限定
- 協力
東日本旅客鉄道株式会社、JR 東日本コンサルタンツ株式会社
（先行公開済みのデータ）
- 都営地下鉄大江戸線 12 駅（東京都交通局の協力により提供、2026 年 9 月 17 日公開）
 - ・ 新宿駅、新宿西口駅、大門駅、赤羽橋駅、青山一丁目駅、国立競技場駅、都庁前駅、麻布十番駅、東新宿駅、六本木駅、上野御徒町駅、代々木駅
 - ・ 歩行空間ネットワークデータ、構内地図データに加え、今年度から GTFS Pathways 形式データを追加

(2) 「公共交通オープンデータチャレンジ 2025」で歩行空間ネットワークデータを使った受賞作品

- 優秀賞
 - ・ Waaalk - 歩いて、乗って、冒険へ。
 - 公共交通の時刻表データと歩行空間ネットワークデータを組み合わせ、行きは徒歩・帰りはバスといった散策ルートを自動生成
- 特別賞
 - ・ EkiLink
 - 駅構内の空間・設備・経路を 3D で可視化し、バリアフリー経路も再現

受賞作品一覧: <https://challenge2025.odpt.org/award/>